# 市議会報告

6月議会（6／7～22）

市議会議員
湯浅美和子

## ◆〝きぼーる〟に432億円！

中央第六地区（扇屋ジャスコ跡）に建設中の再開発ビル（きぼーる）内の5つの施設（ビジネス支援センター・中央区保健福祉センター・科学館・子ども交流館・子育て支援館）を千葉市のものとするための議案が審議されました。

そもそもこの土地、10年以上前に、千葉市がジャスコ㈱より要望を受け、取得することを決めたのですが、使う予定もないのに何故？と、当時の議会で相当の議論があったもの。その後、再開発組合が結成され、ビルが建設されることに。しかし地元に切望する声があるわけではなく、ほとんど千葉市がすべてを担う形で事業が進められてきました。全体の85％が公共公益施設となり、そこに税金を432億円もつぎ込むことで、ようやく成り立った再開発です。もちろん、それぞれの施設に必要性がないわけではありませんが、今この時期に、この場所にどうしても必要かと問われると、納得しがたいものがあります。

障がいを持つ人や高齢の方たちが利用することが多い保健福祉センターが、なんと11～12階に押しやられています。通常は利用しやすい1～2階の低層部にあるべきでしょう。しかし低層部は、民間に売り渡す部分として安い値段で割り振り、千葉市の施設が上層部、しかも市は民間に比べ高額で買い取る、というカラクリです。

子ども交流館は、いわゆる児童センターです。美浜の市民からの、地域に児童館をという要望にはまったく応えることがなかった千葉市が、中央に大きな児童センターを作ることになったのですが、放課後に美浜区の小学生たちが自力で行くには遠すぎ、利用は難しいでしょう。

まずは、身近な場所に子ども達が行きやすい施設を作っていくことが先決です。

# 生活（くらし）みつめれば政治

毎週木曜日は
市政相談日！

## ◆財政パンク？で第2次5カ年計画見直し

大きな費用がかかる施設など作る時、自治体では計画に位置づけて進めていきます。千葉市では平成18年から第2次5カ年計画が進行中。計画事業は、中間点での見直しは常にあるのですが、今回は台所が火の車、大変厳しいものになりそうです。

国では自治体の財政状況を示す新たな指標として「実質公債費比率」を導入しました。この数値、千葉市は政令市中悪いほうから三番目に高く、23％。そのため策定することが求められた公債費負担適正化計画の中で、市債の発行額を大幅に抑制する必要にせまられ、それを踏まえての見直しです。

すでに建設懇談会が設置されていた花見川地区ホール建設も、19年度は予算計上されず凍結状態。しかし見直しの全貌はまだ見えず、12月ごろまでに示され、パブリックコメントが実施されるとのことですが、厳しい見直しになるというのなら、もう少し丁寧に市民の意見を求めるべきですね。

## ◆何のための条例か？

マンション紛争がふえています。市民の苦情に対し、建設事業者との間であっせんや調停を行うことが千葉市の中高層条例で定められています。ところが、この5年間に調停にいたった例は1件もなく、事業者ベースで建設が進められています。実効性のある条例にするために見直しを求めました。

## ◆選管への提案

「道路脇の大量の看板は選挙違反では？」などという市民の通報に対して、選管では記録をとっていないとのこと。そこで、

①通報記録をとること

②選挙公報へのルール掲載

を提案。協議検討するとの回答を得ました。

**今回質問したネット議員**

中央区　小西由希子
緑区　福谷章子
花見川区　長谷川ひろ美
若葉区　山田京子



# 県議会報告

## ―初めての一般質問―
## 教育・文化にもっと予算を

県議会議員・川本幸立

6月20日、当選後はじめての県議会一般質問を行いました。

北千葉道路、酒々井ーこ、圏央道など建設することだけが目的としか思えない公共事業・開発が進められる中、教育・文化にそのツケがまわされています。

今回は、最近5年間で20％の予算と人員削減がすすむ県立博物館、30代半ばの楽団員の月の手取りが10万円台でボーナスなしの千葉唯一のプロのオーケストラのニューフィル千葉、土地区画整理事業の不振でグランドの1／3（約8200㎡）の削減に直面している県立土気高校の問題を取り上げ、堂本知事が進める行財政システム改革を質しました。

質問の最後に、「私は、今回、博物館、ニューフィル千葉、土気高校の問題をとりあげました。今月初めには中高一貫校となる千葉高校を視察しました。その施設の老朽化、改修がなされていないことに驚きました。このままでは、5年10年先の千葉の文化、教育環境の未来はない、と感じます。予算がないではなく、予算の使い方が問題です。地産地消というなら文化の地産地消を是非考えていただきたい。次世代を担う子どもたちにツケを残さない、その夢を破らない、無限の可能性を保障する、そのことが行財政システム改革の本来の目的の一つであるべきです。改革の方向の是正を強く要望いたします。」で締めくくりました。

今後4年間、文化・教育・福祉・医療を柱に据えながら、千葉の地域振興、まちづくりのあり方を根本から問うていきたいと思います。

（市民ネットワークみどり区選出）

# みはまだより

## やっとつきます！エレベーター
### JR検見川浜駅

杖が必要になった方から、「検見川浜駅のエレベーターはいつ付くんでしょうか？」と聞かれた。真剣な面持ちだった。3月市議会で採択された予算で、JR検見川浜駅のエレベーターに千葉市の補助金が、やっと付いたことを答えた。JRによれば、7月から工事、利用開始は来年3月とのこと。駅の構造上3機設置となる。

総事業費1億5690万円
（国・JR・市が1／3ずつ負担）

## 磯辺街づくり研究会の成果

これほど広範に、市民がまちづくりへ具体的提言と参加を千葉市に提案したのは初めてではないだろうか。磯辺1中の空き教室利用に予算がつき、地域全体の福祉を考えたワークホームくるみはスタートしている。

磯辺は入居以来30年となり、少子高齢化が進んでいる。空き教室が増え、一方では市民利用施設や高齢者・障害者の居場所が不足している。このほどまとまった報告書「街づくり構想」は磯辺の歴史についても読み応えのある報告書となっている。読みたい方は吉岡さんまで。

電話番号　279－2931
（磯辺・岩橋百合）

## 幕西の街づくり

2005年12月に幕張西5・6丁目の自治会に「街づくりを考える会」が発足。

絵・宮下玲子

以前に企業庁が住民の意見を聞かず、民間業者に公益施設用地を売却したことに対し反対運動が起り、最終的には売却が白紙に戻ったという経緯がある。そこから自分たちの地域をどのようにしていくか、真剣に話し合われ、会が結成された。

来年の春には「マクハリタマゴ」など大型マンションの入居が始まり、一気に3000人の人口が増える。それに対してのインフラは充分とはいえず、自治会の中にマンション対策委員会が立ち上がった。

幕西は千葉市の一番西に位置し、美浜区である認識も薄い。今までは何事にも消極的で諦め感があったが、企業庁の土地の問題を契機に、この土地で安心して老いていきたいという気持ちが、行動する住民にさせたようだ。

習志野市との隣接地ということでの問題もある。車椅子が通りやすいスロープ建設の予算がつきながら、安全対策が不十分であると、習志野市のOKがいまだに出ず頓挫している。

また、運動公園建設の予定もあり、その土地についても、住民の意見を取り入れたものにできるようにと、話し合われている。幕西は高齢化が区の中で一番進む中、介護・福祉施設が何もなく、公共施設は公民館だけ一つ。駐車場不足も慢性的だ。企業庁の土地に関しては9月30日までに地域の意見集約を急いでいる。

（幕西・秋山敏子）